

学 会 録 事

1. 日本藻類学会第28回大会報告

(1) 日本藻類学会第28回大会

上記大会を2004年3月27日～30日、大会会長本村泰三氏(北海道大学)のもと、北海道大学学術交流会館(札幌市)を会場に開催した。参加者208名、講演数は100題(うち口頭発表は70題、展示発表は30題)に及んだ。

大会1日目は午後から理学部5号館813号室にて、編集委員会と評議員会を開催した。大会2日目は午前午後ともA、B両会場で口頭発表が行われ、午後5時より日本藻類学会総会をA会場にて開催した。総会終了後、大会会場から徒歩で10分程離れた中央食堂で懇親会が催され、約180名の参加があった。北の幸に舌鼓を打ち、おいしいビールやお酒を飲みながら、歓談がもたれた。大会3日目は午前中に口頭発表と展示発表が行われ、午後は口頭発表の終了後、公開シンポジウム「北海道におけるコンブ研究の現状とその問題点」(オーガナイザー: 本村泰三氏・四ツ倉滋典氏(北海道大・北方生物圏フィールド科学センター)が2階講堂で開催された。4題の講演があり、一般の方々も含めて200名ほどが参加し、活発な討論がなされた。大会4日目には北海道大学北方圏フィールド科学センター室蘭臨海実験所でワークショップが催された。15名の参加があり、海藻採集や藻類細胞を扱った蛍光顕微鏡、電子顕微鏡観察法などの実技指導などが行われ、無事、本大会を終えた。

北海道大会の開催にあたり、ご便宜をはかっていたいただいた北海道大学関係者の方々、またシンポジウムを後援していただいた財団法人札幌国際プラザに厚く御礼申し上げる。また大会の運営に当たっては、本村泰三大会会長をはじめ、大会準備委員長の堀口健雄氏、庶務を担当された四ツ倉滋典氏、嶋田智氏、阿部剛史氏、長里千香子氏、北海道大学大学院理学研究科の大学院生および学部学生諸氏等、多数の方々にご尽力いただいた。ここに記して厚く御礼申し上げる。

(2) 第28回大会参加者名簿

青木優和、青山 勲、赤池章一、秋野秀樹、鯉坂哲朗、阿部英治、阿部信一郎、阿部真比古、阿部祐子、阿部剛史、有賀祐勝、飯塚 治、庵谷 晃、(株)池田理化、池田春彦、石川衣久子、石田健一郎、石堂幹夫、磯脇志摩、出井雅彦、井上千鶴、井上 勲、今井一郎、岩尾豊紀、岩滝光儀、植木知佳、内村真之、海の研究室、上井進也、エチェン・ジャン・ファイ、江端弘樹、江原 亮、大内真理子、大江真司、大田修平、大谷修司、大野正夫、大淵希郷、大村嘉人、岡 直宏、沖野龍文、奥田一雄、奥田弘枝、奥野律子、長田敬五、長船哲齋、尾上静正、小野寺直子、小山幸男、甲斐 厚、カイゲン(株)、笠井文絵、梶里 早、加藤 将、加藤亜記、金井塚恭裕、狩野洋佑、神澤耕平、川井浩史、川井唯史、川口栄男、川嶋昭二、河地正伸、川原利恵、川見寿枝、岸田智徳、岸林秀典、木村 圭、桐原慎二、金高卓二、日下啓作、工藤 創、

倉島 彰、栗原 暁、桑野和可、小林 敦、小林 光、近藤公彦、齋藤宗勝、坂口美亜子、嵯峨直恒、坂西芳彦、坂山英俊、櫻田ルミ、佐々木美貴、佐藤晋也、佐藤康子、嶋田 智、嶋田智恵子、島袋寛盛、清水望世、鈴木秀和、鈴木雅大、須田彰一郎、周藤靖雄、関田諭子、関本訓士、芹澤如比古、田井野清也、高石容二郎、高木善智、高田みはる、高野義人、高橋昭善、高橋 潤、滝尾 進、瀧下清貴、田口保彦、竹下俊治、但野智哉、多田匡秀、田中厚子、田中貞子、田中次郎、田中 博、棚田教生、田辺雄彦、谷 昌也、谷藤吾朗、田村舞子、張 文波、筒井 功、角田博義、手塚康介、寺脇利信、傳法 隆、富永恭司、富松亮介、中川禎人、長里千香子、長島秀行、仲田崇志、中原美保、長山公紀、中山 剛、南雲 保、名畑進一、西澤 信、西原グレゴリー直希、ノエル マリーエレン、野崎久義、能登谷正浩、野水美奈、長谷川和清、幡野恭子、羽生田岳昭、馬場将輔、濱田 仁、林 愛子、林田文郎、原 慶明、原口展子、原田 愛、半田信司、比嘉 敦、菱沼 佑、平岡雅規、平川泰久、藤田雄二、藤吉栄次、堀口健雄、堀口法臣、本多大輔、前川行幸、増田道夫、松井香里、松尾嘉英、松村航、松本里子、松山和世、松山恵二、真山茂樹、水野 真、御園生拓、峯 一朗、宮地和幸、宮村新一、武政 登、村岡大祐、村瀬 昇、本村泰三、森 祐子、森口朗彦、森田晃央、山岸隆博、山岸幸正、山口 喬、山口晴代、山口愛果、山田家正、山砥稔文、山中良一、山本芳正、巖 興洪、雪吹直史、横浜康継、横山亜紀子、横山奈央子、吉川伸哉、吉崎 誠、吉田吾郎、吉武佐紀子、四ツ倉典滋、若菜 勇、渡辺 剛、渡辺朋英、渡辺 信

(3) 編集委員会・評議員会

3月27日午後3時から北海道大学理学部5号館813号室において、英文誌編集委員会および和文誌編集委員会の合同編集委員会を開催した。

和文誌について前川和文誌編集委員長より第51巻「藻類」及び52巻「藻類」の編集状況に関する報告があった。2003年に発行された「藻類」51巻には4編の原著論文と2編の短報、その他が掲載され、総ページ数は206頁であった。52巻に関しては1号に3編の原著論文が掲載されており、また2号に掲載を回した論文に加え、現在審査中の論文5編があり、今後の編集に十分な投稿論文数が確保されていることなどが報告された。また藻類52巻1号では印刷ムラがみられ、紙質の変更が原因と考えられ、今後検討することが述べられた。

英文誌については奥田英文誌編集委員長から「Phycological Research」の2003年度、2004年度の編集状況および年間投稿状況に関する報告があり、2003年度は総頁数284頁、掲載論文数31編で、2004年度については52巻2号までで19編の掲載があり、現在52巻3号の発行準備を進めているという報告があった。また52巻4号はDIN07のプロシーディングとすることが決まっているが、この編集も順調に進んでいることが報告された。昨年度投稿規定を変更して

電子ファイルでの投稿を可能にしたが、2-3件を除き、ほとんどの投稿者が利用しており、今後一層の掲載に要する日数の短縮が期待されることが報告された。さらにオブザーバーとして参加していただいたBlackwell Publishing Asiaの松永理乃氏とKatie Julian氏から同社で編集したAnnual reportに基づいた説明を受けた。ISI社(Institute for Scientific Information)への登録申請については、奥田委員長がBlackwell Publishing Asiaの協力により、2004年1月に推薦書等を含む必要書類を作成し申請した。2003年4月から2004年2号の発行状況に基づいて審査がなされ、本年7月頃に結果が出る予定であることが報告された。これと関連し、本誌の国際情報発信の役割をより高めるための方策について広報活動をはじめ種々議論された。

評議員会は編集委員会終了後、同会議室にて午後5時より開催された。原会長を議長に選出し、2003年度総会に提出する報告事項・審議事項などに関して審議した。その内容に関しては総会の項を参照されたい。

合同編集委員会・評議員会開催にあたっては本村泰三氏、堀口健雄氏、長里千香子氏をはじめ、北海道大学の院生・学生諸氏に大変便宜をはかっていただいた。記してお礼申し上げる。

(4) 2004年度総会

2004年3月28日の口頭発表終了後、午後5時より大会会場となった北海道大学学術交流センターA会場にて総会を開催した。原会長の挨拶の後、東京農大の水野真氏を議長に選出して総会の議事に入った。

【報告事項】

●庶務関係

(1) 会員状況(2003年12月31日現在):名誉会員3名,普通会員624名,学生会員81名,団体会員57名,賛助会員13名,外国会員129名(32カ国),国内購読32件。(2) 2003年度文部省科学研究費刊行助成金「研究公開促進費」交付額は2,200,000円であった。(3) 2003年度事業報告1)日本藻類学会第27回大会・評議員会・総会(三重大学生物資源学部3月27日~3月30日)を開催した。2)和文誌「藻類」51巻1-3号を発行した。3)英文誌「Phycological Research」51巻1-4号を発行した。4)第6回日本藻類学会論文賞(河地正伸氏,井上勲氏,本多大輔氏, Charles J. O'Kelly氏, J. Craig Bailey氏, Robert R. Bidigare氏, Robert A. Andersen氏)を授与した。5)秋季シンポジウム「藻類加工技術の現状と展望」(12月6日,ロイヤル・パークホテル)を開催した(日本海藻協会と共催,応用藻類学研究会が協賛)。6)第1回「マリンバイオテクノロジーExpo」(9月22-23日,幕張メッセ,マリンバイオテクノロジー学会主催)に協賛した。7)日本植物学会第67回大会(札幌)で「植物の進化に対する昆虫のインパクト」-植物分類学関連学会連絡会主催シンポジウム-に参画した。8)第7回日本藻類学会論文賞の選考を行った。

●会計関係

(1) 2004年3月8日現在の2003年度会費納入率(雑誌発送

会員を対象)は,一般会員94%,学生会員84%,賛助会員83%,団体会員76%,外国会員95%であった。(2)その他の事項に関しては審議事項を参照されたい。

●編集関係

(1) 2003年度に発行した和文誌「藻類」第51巻は,総頁数206頁,内訳は原著論文・短報6編,その他であった。また,52巻については,現在,審査中のものが5編あり,今後の掲載には十分である。(2) 2003年度に発行した英文誌「Phycological Research」第51巻1-4号は,総頁数284,掲載論文31編であった。また,52巻についても順調に編集作業が進んでいるとの報告があった。これらに関連した詳細については,前述の編集委員会・評議員会の項を参照されたい。

【審議事項】

●庶務関係

(1) 2004年事業計画として以下の事項が承認された: 1) 日本藻類学会第28回大会・評議員会・総会(北海道大学学術交流センター3月27日~3月30日)の開催, 2) 第7回日本藻類学会論文賞の授与と第8回日本藻類学会論文賞の選考, 3) 第1回日本藻類学会研究奨励賞の選考, 4) 和文誌「藻類」52巻1~3号の発行, 5) 英文誌「Phycological Research」52巻1~4号の発行, 6) 日本藻類学会会員名簿の発行, 7) 日本藻類学会会長選挙及び評議員選挙の実施, 8) 日本藻類学会会則の改定, 9) 秋季シンポジウムの開催・・・「新規海藻産業への展望」というテーマで, 食用海藻, 機能性成分, 健康食品, 海藻多糖類, 医薬品などの分野について11月にロイヤルパークホテル(日本橋)で開催予定, 10) 第7回マリンバイオテクノロジー学会大会(北海道大学学術交流センター, 6月17-19日, 札幌市)の協賛, 11) 日本植物学会68回大会時の植物分類学関連学会連絡会主催のシンポジウムへの参画(「植物の体制にブループリントはあるのか」オーガナイザー:長谷部光泰, 塚谷裕一), 12) 日本分類学連合イベント「なん種類の生物が日本にいるか知っていますか? -日本分類学連合ブックフェア-」(ジュンク堂書店池袋本店, 2月1日-3月15日)への参加

(2) 2006年の日本藻類学会大会の開催地は九州地区とし, 野呂忠秀氏(鹿児島大学)にお世話をお願いすることが承認された。

(3) 一昨年11月に組織化された藻類学会活性化ワーキンググループから昨年度の総会で提案され, 諮られた6項目の“学会活性化のための方策”の1つである「外国人会員に原則として国内会員と同等の権利(学会録事などの報告, 選挙権など)を付与する」方策について検討した結果, 藻類学会会則改正案が提案され, 承認された。しかし, これとは別に本会則には文言等において不適切な箇所があることから, 事務局と評議員会とでさらに検討・修正し, その上で来年1月1日をより施行することが了承された。また, 日本藻類学会論文賞の対象が英文誌「Phycological Research」で発表された論文のみとなるのに伴い, 和文誌「藻類」に掲載された論文, 総説, 記事なども対象とする新たな賞を設けることが検討されてきた。その結果, 今年度より若手研究者を対象とした日本

藻類学会研究奨励賞の設立が提案され、承認された。本賞の設立にあつたのは、有賀祐勝元会長から多大なご寄付をいただくとともに、多くの方々にご尽力いただいた。本賞の選考方法、対象者等については別に記した日本藻類学会研究奨励賞要綱を参照されたい。(4)会長選挙及び評議員選挙については6-7月に評議委員会による会長候補者の推薦を行い、8月に会長選挙を実施することが提案され、承認された。(5)日本藻類学会会員名簿は平成10年以来、改訂されていないことから、今年11月を目途にその改訂版を藻類の別冊として発行することが承認された。(6)植物分類学関連学会連絡会共同名簿についてはこれまで通り、希望者のみ名簿に掲載することが承認された。(7)日本藻類学会企画委員会(石川依久子委員長)の廃止と資金の一般会計(寄付項目)への組み入れが承認された。(8)第19回国際海藻シンポジウムへの協力について了承された。(9)IPC9準備委員会および組織委員会の設立について提案があり、IPC9準備委員会が母体となり2005年に他の関連学会の協力を仰ぎ、IPC9組織委員会を設立することが了承された。

●会計関係

(1) 2003年度一般会計決算報告および同監査報告は表1-1および表1-2の通り承認された。

(2) 2003年度山田幸男博士記念事業特別会計の決算報告および同監査報告(齋藤宗勝氏:盛岡大学短期大学部, 日野修次氏:山形大学)は表2-1および表2-2の通り承認された。

(3) 2004年度一般会計および山田幸男博士記念事業特別会計の予算は表3および表4の通り承認された。

【日本藻類学会論文賞授与】第7回日本藻類学会論文賞受賞者の発表がおこなわれた。これは2003年に出版された和文誌「藻類」51巻1~3号, および2002年から2003年にかけて出版された英文誌「Phycological Research」vol. 50(4), vol. 51(1)-(3)の中から、規定により審査員の投票によって選ばれ、総会前日に開催された合同編集委員会および評議員会です承されたものである。今回は下記の論文が選ばれ、論文の著者にそれぞれ賞状が総会にて授与された。

Satoshi Shimada, Masanori Hiraoka, Shinichi Nabata, Masafumi Iima and Michio Masuda

Phycological Research 51(2):99-108 (2003)

Molecular phylogenetic analyses of the Japanese *Ulva* and *Enteromorpha* (Ulvales, Ulvophyceae), with special reference to the free-floating *Ulva*.

2. 日本藻類学会研究奨励賞

日本藻類学会総会報告にあるように、本年度より新たに若手研究者を対象とする日本藻類学会研究奨励賞を設けました。下記の要綱に従い広く募集致しますので、積極的にご推薦下さるようお願い致します。なお、本研究奨励賞に関するご質問や推薦理由および業績リストを添付した推薦書等について

は、日本藻類学会事務局までお問い合わせ下さい。

日本藻類学会 研究奨励賞 要綱

1. 我が国の藻類学の発展に積極的に寄与することを期待し、藻類学及びその関連分野において優れた研究成果をあげた大学院学生等を表彰する「日本藻類学会研究奨励賞」(以下、本賞という)を設ける。

2. 本賞は、その主たる部分が日本の大学の大学院在学中に行われた研究を対象とする。本賞の対象となる候補者は推薦の時点で大学院修了後3年程度以内、おおむね33歳までの日本藻類学会会員とする。また、推薦の時点で少なくとも、日本藻類学会誌「Phycological Research」または「藻類」に論文を一編以上発表しているか、日本藻類学会大会において一回以上研究発表している者とする。

3. 本賞の選考は、当該研究の独創性、発展性、あるいはそれまでに得られた成果の充実度などについて総合的に判断しておこなう。選考は、学術誌に発表された論文(候補者が原則として第一著者のものに限る)、学位論文、学会発表、その他参考となる資料に基づいておこなう。

4. 本賞授賞候補者の推薦は、自薦または日本藻類学会の会員による会長への推薦によっておこなう。推薦に必要な書式、応募方法等は別途定めるところによる。

5. 本賞授賞候補者の選考には、別に設置する推薦委員会(委員5名)がその任にあたる。推薦委員会委員長は授賞候補者1名を会長に報告するものとし、会長はそれを評議員会に諮り、評議員会の了承を経て決定する。推薦委員会委員の選出方法については別途定めるところによる。

6. 本賞は、賞状と副賞(賞金10万円)とする。

7. 賞金は別途準備される基金を用いる(付記参照)。

8. 本賞授賞に必要な経費(賞金を除く)は本会の通常会計でまかなうものとし、選考以外の業務は本会事務局が担当する。

付記

1) 応募方法・スケジュール等について

- ・ 推薦は随時受け付けるものとする。推薦者は推薦書および必要な資料を添えて本会事務局に提出する。
- ・ 当該年度の推薦締切は12月25日とする。
- ・ 本会事務局は、推薦書および資料を推薦委員会委員長に提出する(1月)。
- ・ 推薦委員会委員長は、推薦委員会を開催し(持ち回りも可とする)、授賞候補者の決定をおこない、会長に報告する。
- ・ 会長は評議員会の了承を経て授賞者を決定し、総会において表彰をおこなう。

2) 推薦委員会委員の選出について

- ・ 推薦委員会のメンバーは評議員(国内)の互選で選出する。5名連記の無記名投票により、上位5名を選出する。最多得票者を委員長とする。

- ・推薦委員の任期は評議員改選時に新評議員の互選で選出されてから、次の評議員の改選時までとする。

3) 本賞の基金について

- ・本賞の基金は、有賀祐勝・元学会長による寄付金を原資とする。

3. その他の報告

(1) 植物分類学関連学会連絡会

植物分類学関連学会連絡会会議は例年、植物分類学会大会と植物学会大会の折に会議を開催してきたが、今年度の植物学会大会時のシンポジウムに関する内容の確認以外に重要な議題がないことなどから、メール会議となった。1) シンポジウムのテーマについて 昨年合意された「植物の多様性に対する進化発生学的アプローチ」というテーマに沿い、本年度は長谷部光泰氏と塚谷裕一氏をオーガナイザーとして「植物の体制にブループリントはあるのか」というタイトルで開催することになった。2) 合同会員名簿について 日本植物分類学会、植物地理・分類学会、シダ学会、種生物学会、日本藻類学会(希望者のみ)は合同名簿作成への参加を示したが、これ以外の学会からは回答が出ていない。しかし今後は8月末までに各学会で会員情報を整理し、12月中旬に印刷・発送というスケジュールで名簿作成を進めることになった(日本藻類学会会員の方で、合同名簿への掲載を希望する方は藻類学会事務局菱沼まで御連絡下さい)。3) その他 分類学連合が発足した今、本連絡会の意義を見直す機会ではないかという提案がなされた。

(2) 平成16年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「学術定期行物」の「Phycological Research」への交付について

昨年申請した上記補助金研究成果公開促進費「学術定期行物」については、今年度は採択されなかった旨、日本学術振興会から連絡があった。本学会事務局から日本学術振興会に問い合わせたところ、事務方なので不採択の理由はわからないが、Phycological Researchについて「必ずしも国際性が高いとは言えない」というコメントが付されているという回答を得た。来年度以降、同補助金の交付の推移を見守りながら、今後の学会のあり方について検討していく必要がある。

(3) 日本学術会議の今後について

現在、日本藻類学会は第19期の日本学術会議登録学術研究団体となっている。しかし「日本学術会議法の一部を改正する法律」が国会両院で可決成立し、平成16年4月14日に公布され一部施行されたことにより、日本学術会議会員の推薦制度が変更され、「登録学術研究団体」制度も同日廃止された旨、日本学術会議会長より文書が配布された。制度の廃止後も当面の間、第19期に登録された「登録学術研究団体」は「広報協力学術団体」として日本学術会議と連携協力していくことになっている。本改正に伴い、昨年7月に発足した日本学術会議の第19期の活動期間及び研究連絡委員会の活動期間は平成17年9月30日までとなる。第19期後は改正された法律

に基づいて会員選考を行い、また現行の7部制から3部制に改組された組織機構により、内閣府のもとで日本の科学者コミュニティの代表機関としての日本学術会議が運営されていくことになる。

今回の改正された日本学術会議法の概要とポイント及び日本学術会議の改革の経緯等については、日本学術会議のホームページ (<http://www.scj.go.jp/>) に掲載されているので、参照されたい。

(4) 2004年日本藻類学会第1回持ち回り評議員会

平成16年4月16日から30日に第1回持ち回り評議員会を開催し、下記の事項について審議した。

1) 会則改正について

本年総会において外国会員の対応改善に関する第8条の外国会員の会費と付則1条の会長選挙と評議員選挙およびそれに伴う第6条の改正年月日が承認されたが、持ち越しとなった本学会の会員名称およびその他、字句の訂正について議論した。会員の種類は、会則に則し、普通会员(国内会員)、普通会员(外国会員)、団体会員、名誉会員、賛助会員を正式名称とし、外国人会員および学生会員、一般会員は通称であり、正式の名称でないことなどを確認し、以下の変更等について審議し、承認された。

第3条に4号の添記および以下の号数の変更。第6条、1号から5号の改正。但し、4号の名誉会員に関しては「満70歳以上の会長経験者とする」旨の内規がありそれに従ってこれまで運営されてきたがその成文がこれまでの議事録から見いだせていない(再度探索中)。第9条、2行目の「重任」を「再任」とする。第12条、付則の追加(今回の改正ではなく、記載漏れの追加である)。付則第2条、条文の修正。付則第2条2号の修正。付則第4条条文の修正。

2) 名誉会員について

会長経験者で70歳以上の会員には評議員会の議を経て名誉会員の資格を与えられることになっているが、事務局が有資格者である元会長の吉田忠生、石川依久子両先生への連絡と評議員会諮問の手続きを怠っていたことから、この度、吉田・石川両元会長を名誉会員とすることを提案し、審議の上承認された。

3) 確認事項

以下の事項について確認がなされた。

○日本藻類学会研究奨励賞要綱について、札幌での評議員会の際に指摘された文言が適切に修正されているか、貼付した書類をもとに確認した。○和文誌「藻類」を媒体とする日本藻類誌編纂・発行のための委員会を設けることが既に平成15年度の総会で承認を受けたが、藻類誌(大型藻類編)編集委員会の編集委員会という名称が和文誌、英文誌の委員会にも使用されており、混乱を避けるため、世話人の了解のもと「藻類誌編纂委員会」する。

編纂委員：世話人(委員長)川井浩史(神戸大学)、和文誌編集委員長 前川行幸(三重大学)、小亀一宏(北海道大学)、北山大樹(国立科学博物館)、田中次郎(東京海洋大学)、菊地則雄(千葉県立博物館)、神谷充伸(福井県立大学)、川口

栄男（九州大学）

○9th International Phycological Congress(Tokyo)=IPC9 準備委員会について札幌大会最終日の昼休みにIPC9準備委員会発足の会合を開催した。2005年にIPC8（南ア：ダーバン）へのInvitation AddressおよびIOC（国際藻類学会事務局）への申請の関係からIPC9組織委員会を設立する必要があるが、それまでの窓口を日本藻類学会事務局としてため、以下のように準備委員会を構成した。原 慶明（山形大学）＝委員長＝、堀口健雄（北海道大学）、今井一郎（京都大学）、井上 勲（筑波大学）、石田健一郎（金沢大学）、川井浩史（神戸大学）、河野重行（東京大学）、本村泰三（北海道大学）、野崎久義（東京大学）、松岡教充（長崎大学）、宮下英明（京都大学）、関本弘之（東京大学）、田中次郎（東京海洋大学）、渡

辺 信（国立環境研究所）、奥田一雄（高知大学）、前川行幸（三重大学）。なお、IPC9準備委員会は原則としてe-mailによる持ち回り会議方式で開催し、委員会を進めること、また2005年からの組織委員会の体制作りを井上勲氏に、氏の要望に従い川井浩史氏の支持・支援を条件として、正式に依頼することを決定した。○有賀元会長より藻学研究に優れた業績を挙げた大学院学生等に授与する研究奨励賞賞金として拝受した寄付金（2,200,000円）については、一般会計から切り離し、日本藻類学会研究奨励賞基金として別会計で処理する。なお、今年度から同賞の応募（締め切りは本年12月25日）を開始することも確認した。詳細は次号「藻類」に掲載する。○日本藻類学会企画のシンポジウム（日本植物学会時）については、本シンポジウムの意義や継続性を考慮し、本年度も実施すべく、会長より片岡博尚氏（東北大学）に企画申請を依頼し、快諾を得た。

表1-1. 2003年度一般会計決算（2003.1.1-2003.12.31）

収 入 (円)		支 出 (円)	
会 費	6,156,000	和文誌印刷・発送費	1,320,135
普通会員	4,188,000	印刷代	893,970
学生会員	320,000	別刷代	212,310
外国会員	478,000	発送費	213,855
団体会員	840,000	英文誌印刷・発送費	6,916,330
賛助会員	330,000	編集費	400,000
販 売	686,050	和文誌編集補助費	100,000
定期購読	580,950	英文誌編集補助費	300,000
バックナンバー	105,100	庶務費	204,689
別刷代	224,100	事務用品費	27,638
超過頁負担代	0	会議費	37,920
広告代	150,000	通信印刷費	104,926
受取利息	52	諸雑費	34,205
学術振興会刊行助成金	2,200,000	事務補助費	0
英文誌還付金	146,532	幹事旅費補助費	60,960
寄付金	338,000	大会補助費	120,000
雑収入	1,260	秋季シンポジウム補助費	50,000
雑益	51,235	自然史学会連合分担金	20,000
小 計	9,953,229	小 計	9,092,114
前年度繰越金	12,763,805	次年度繰越金	13,624,920
合 計	22,717,034	合 計	22,717,034

表1-2. 2003年度貸借対照表（2003.1.1-2003.12.31）

貸 方 (円)		借 方 (円)	
普通預金（山形銀行、東山形）	3,299,645	次年度繰越金	13,624,920
普通預金（四国銀行、朝倉）	2,696,490	前年度繰越金	12,763,805
郵便口座（山形）	1,345,903	当期余剰金	861,115
郵便口座（高知）	5,970,619		
現金（山形）	312,263		
合 計	13,624,920	合 計	13,624,920

表 2-1. 2003 年度山田幸男博士記念事業特別基金会計決算 (2003. 1. 1-2003. 12. 31)

収 入 (円)		支 出 (円)	
受取利息	432	論文賞用雑費	2, 121
貸付返済	266, 700		
小 計	267, 132	小 計	2, 121
前年度繰越金	2, 134, 820	次年度繰越金	2, 399, 831
合 計	2, 401, 952	合 計	2, 401, 952

表 2-2. 2003 年度山田幸男博士記念事業特別基金貸借対照表

貸 方 (円)		借 方 (円)	
定期預金 (三井住友、京都)	1, 900, 000	次年度繰越金	2, 399, 831
普通預金 (三井住友、京都)	498, 683	前年度繰越金	2, 134, 820
現金 (山形)	1, 148	当期余剰金	265, 011
合 計	2, 399, 831	合 計	2, 399, 831

日本藻類学会 2003 年度決算報告に対し記名捺印する。

2004 年 3 月 17 日

会 長 原 慶明 印
 会計幹事 横山 亜紀子 印

決算書が適正であることを認める。

2004 年 3 月 17 日

会計監査 齋藤 宗勝 印
 日野 修次 印

表 3. 2004 年度一般会計予算 (案) (2004. 1. 1-2004. 12. 31)

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
会 費	5, 731, 000	和文誌印刷・発送費	3, 250, 000
普通会員	3, 888, 000	印刷代	2, 550, 000
学生会員	235, 000	別刷代	300, 000
外国会員	483, 000	発送費	400, 000
団体会員	765, 500	英文誌印刷・発送費	6, 500, 000
賛助会員	360, 000	編集費	600, 000
販 売	300, 000	編集補助費	200, 000
定期購読	250, 000	通信補助費	200, 000
バックナンバー	50, 000	事務用品費	200, 000
別刷代	230, 000	庶務費	600, 000
超過頁負担代	20, 000	事務用品費	100, 000
広告代	150, 000	会議費	100, 000
受取利息	60	通信印刷費	200, 000
学術振興会刊行助成金	2, 200, 000	諸雑費	200, 000
英文誌還付金	150, 000	事務補助	100, 000
寄付金	50, 000	幹事旅費補助	200, 000
		大会補助費	120, 000
		秋季シンポジウム補助費	50, 000
		自然史学会連合分担金	20, 000
		日本分類学会連合分担金	10, 000
小 計	8, 831, 060	小 計	11, 450, 000
前年度繰越金	13, 624, 920	次年度繰越金	11, 005, 980
合 計	22, 455, 980	合 計	22, 455, 980

表 4. 2004 年度山田幸男博士記念事業特別基金会計予算 (案) (2004. 1. 1 - 2004. 12. 31)

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
受取利息	500	論文賞用雑費	2,000
貸付返済	200,000		
小 計	200,500	小 計	2,000
前年度繰越金	2,399,831	次年度繰越金	2,598,331
合 計	2,600,331	合 計	2,600,331

表紙の写真



種名：フサカニノテ *Marginisporum aberrans* (Yendo) Johansen et Chihara in Johansen

撮影日：2004年05月27日

撮影地：三重県志摩郡志摩町麦崎，水深1mにて。

潜水撮影：岩尾豊紀（三重大学 生物資源学研究科）

コメント：麦崎は非常に植生の豊かな海であり，春にはヒジキやアラメの収穫をする海女さん達で賑わう。フサカニノテは食用でもなく，商品価値もない海藻なので普段脚光を浴びることは少ない。しかし，水中でさんさんと光を浴び，ガッチリと岩にくっついているその姿は華のある脇役といった感じであり，他の海藻に負けない存在感がある。

編集後記

日本藻類学会28回大会の報告を見て、北海道大学のスタッフの方々の苦勞が目に見えるようで、ご苦勞様でした。液晶プロジェクターとパワーポイントを用いた口頭発表もスムーズに行われ、これからはこのような形での講演が定着すると思います。懇親会も盛況で出席された方々も満足しておられたようです。それにしても開催後記に「マグロの解体」とわざわざ触れられており、よほどインパクトが強かったのかと、内心では嬉しくもあり、やりすぎたかと反省もしております。(M.M.)